

霧立越の概要

霧立越の全行程は、熊本県馬見原から椎葉村尾前まで約 30 数 km に及ぶが、トレッキングに適した部分は、九州脊梁山地・向坂山(1684m)から扇山(1661m)の稜線を南北に繋ぐ約 12km の尾根伝いの径である。霧立越は、昭和 8 年に自動車道が開通するまで熊本県の馬見原と宮崎県椎葉村をつなぎ、人々の移動や馬の背に生活物資を乗せて運ぶ「駄賃付け」の径として利用された。

霧立越の古道には多くの歴史が残されている。壇ノ浦の合戦に敗れた平家一門がこの径を通って椎葉に逃れたとされ、西南の役においては田原坂合戦に敗北した西郷軍が熊本県人吉に敗走する時にここを越えたといわれる。また、豊臣秀吉の時代から徳川時代にかけて東の柳生流、西のタイシャ流と呼ばれ剣豪日本一を競うことになるタイシャ流の剣豪丸目蔵人も行き来したとされる。

霧立越は、国定公園の特別保護区・生物遺伝子資源保存林であり、ブナをはじめとした原生林でおおわれ、固有種となる「キリタチヤマザクラ」も発見されている。この一帯には 4 億年ほど前に海底の隆起によって九州島が最初に出来たとされる祇園山も含まれている。

このように多くの歴史・豊かな自然を秘めた霧立越の古道は、「霧立越の歴史と自然を考える会」によって 1995 年(平成 7 年)からトレッキングコースとして整備されてきた。

